

北から南から

はくじょう

「白杖の歩行訓練士として～見えない・見えにくい方々との出会い」

中野 純子（旧姓「岡田」 普通科21期生）



私は大学生の時に点字を学び、毎日新聞社の「点字毎日」のお手伝いをしながら、盲学校教員を志望していました。卒業後、社会科教員となって20年目によく盲学校（視覚支援学校）への赴任が叶い、その勤務の中で日本ライトハウスへ派遣されて、白杖の「歩行訓練士」の資格を取得しました。

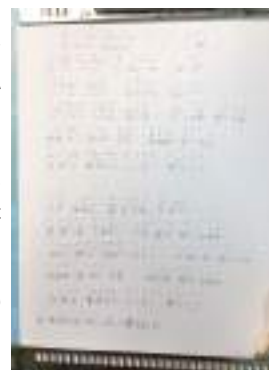
皆様も街で白杖を使ってひとりで歩いておられる方を見かけることがあると思います。一本の白杖によって障害物から身を守り、白杖を操作して触れる物の感触や音から様々な情報を受け取り、身体全体で音や温度・風その他の情報を感じて、頭の中に地図（メンタルマップ）を描き、安全に歩く方法を体得されているのです。歩行訓練士とは、その技術等を教える専門職ですが、全国でも数が少なく、まだまだ知られていない職種です。研修では私もアイマスクをかけて白杖を使って街を歩き、電車に乗る訓練を受けました。

私が担当して長い時間をかけて練習した生徒さんたちが、ひとりで屋外を歩けるようになって、明るく前向きに社会参加と自立の道



を広げていかれる姿に接することは、大きな喜びでした。重複障がいのある生徒さんの歩行指導も行いました。定年退職後は、見えない・見えにくい人のためのガイドヘルパーを育成する研修や点字の講師をしながら、大学で視覚障がい教育の講座を担当しています。その中で多くの当事者の方や支援者と出会い、学ばせていただいています。白杖を使用されている方は、駅や横断歩道などで声をかけられることでより安全に外出ができます。優しい心遣いがさらに広がればと願います。

高校時代は、部活動や体育祭・文化祭・霧ヶ峰キャンプなどの多彩な行事を謳歌しました。私は校歌の「真理の窓に／栄えあり平等」「共学恒に／自由の精神」というフレーズが大好きです。自由で大らかな校風のもと、バラ園で語り合った友人たち、見守ってくださった先生方、図書室で読んだ数々の書物が、私の人生の基礎を作ってくれたことに感謝し、ヒガスミでの青春の3年間を心から誇りに思っています。



校歌を点字にしたもの

共生推進教室活動報告

「2025年の共生推進教室の活動」

共生推進コーディネーター 川光 春菜

2025（令和7）年も共生推進教室の活動にご支援ご協力いただき、ありがとうございました。今年度は共生推進教室発信の行事を4つもできたことに大変うれしく思います。

①七夕イベント（6月30日～7月4日）

卒業生よりご提供いただいた笹を飾りました。設置してすぐに生徒たちが短冊に想いを書き込んで飾っていました。

②せっけんづくりワークショップ（夏休み中）

普通科の生徒たちも参加して、せっけんづくりをしました。作ったせっけんは例年よりも多くできましたが文化祭での模擬店「共生電車」にて完売できました。ありがとうございました。

③スポーツイベント（12月17日）

ドッジビーとモルックをしました。モルックはボウリングに似たスポーツで老若男女問わず楽しめるスポーツです。またいつか一緒にできたらいいですね。

④書初め大会（1月7日）

今年の目標を書きました。それぞれの目標に向かって頑張らしましょう！

また、今年より本校共生推進教室卒業生（1期生）をお招きし、進路公演会を開くことができました。

卒業生からは働く上で、(1)「色んな実習先を経験して、自分の進路を決めること」(2)「大きな声で笑顔であいさつすること」(3)「わからないことは聞いて、メモをとること」の3つの大切なことを伝えていただきました。

今後も可能であれば継続して、卒業生より自分たちの就職先での活躍や後輩へのアドバイスなどを聞かせてもらえると幸いです。共生推進教室卒業生のみなさまのご活躍もお祈りいたします。



七夕イベントの笹と短冊



せっけんづくりワークショップ